

授業科目 公衆栄養学Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	健栄
村 山 伸 子		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 公衆栄養学Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅰでは、日本を中心に、（１）公衆栄養学の概念と枠組みと計画・実施・評価の進め方、（２）社会における栄養問題の実態把握、（３）公衆栄養活動の基盤としての組織、制度、法規、（４）主要な栄養政策や栄養プログラムについて理解する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 公衆栄養学の概念と公衆栄養活動の目的について説明する。 2. ヘルスプロモーションの視点から公衆栄養活動の計画・実施・評価の枠組みと手順を説明する。 3. 日本人の健康、栄養状態、食生活、食環境等のデータを分析し、現状と課題を読み取る。 4. 日本の栄養政策について（特に法・制度基盤、主要計画、食事摂取基準、国民健康・栄養調査など）目的と概要を説明する。 5. 自治体の役割と公衆栄養プログラムについて、全体像を理解し、その内主要なものについて資料をもとに説明する。 6. 国際的な栄養問題の主要なものについて、現状、原因、対策について、資料をもとに説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	公衆栄養学の概念と目的（生態系、地域、集団、ヘルスプロモーション）			1	講義
2	公衆栄養マネジメント、公衆栄養アセスメントの枠組み			2	講義
3	日本人の健康、栄養問題の現状と課題：（１）高齢社会と健康・栄養問題、 （２）健康状態の変化、（３）食事の変化、（４）食生活の変化、 （５）食環境の変化などについて、「国民栄養の現状」などのデータをもとに構造的に把握する。			3	講義
4	同上			3	講義
5	日本の栄養政策：（１）公衆栄養活動の歴史、（２）公衆栄養活動の制度的基盤、 （３）栄養士・管理栄養士養成制度、（４）国民健康・栄養調査、 （５）食生活指針、運動指針、休養指針、（６）健康日本21と地方計画策定			4	講義
6	同上			4	講義
7	日本の栄養政策：食事摂取基準（基礎概念）			4	講義
8	日本の栄養政策：食事摂取基準（各論）			4	講義・演習
9	日本の栄養政策：食事摂取基準（活用１）			4	講義・演習
10	日本の栄養政策：食事摂取基準（活用２）			4	講義・演習
11	自治体の公衆栄養活動：県・保健所のプログラム			5	講義
12	自治体の公衆栄養活動：市町村のプログラム			5	講義
13	国際的な栄養政策：生活習慣病対策			6	講義
14	国際的な栄養政策：低栄養、微量栄養素の不足対策			6	講義
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	公衆栄養学	田中平三他	南江堂	2006・3,000円	
	国民健康・栄養の現状	健康・栄養情報研究会	第一出版	最新版	
	日本人の食事摂取基準2005年版	厚生労働省	第一出版	2005・2,300円	
	日本人の食事摂取基準の活用		第一出版	2005・1,400円	
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席、筆記試験、積極的参加の程度		【履修上の留意点】			